

大賞

「こねこのクリスマス」の思い出

田崎 明

柳田邦男先生こんにちは。私は荒川区でゴミ収集作業員をしています。毎日仕事をしていると色んなことを経験します。今日はその中の一つをお話ししたいと思います。

清掃事務所ではみなさんのお宅から出されるゴミや、粗大ゴミ、資源ゴミの収集をしています。お宅で飼われていて亡くなったいぬやねこなどのペット、路上で轢かれたりして死んでしまった動物の回収も行っていきます。あまり知られていませんが動物たちはその後、ペット霊園で手厚く供養されます。

ある日、清掃事務所にねこが死んでいる、との通報がありました。住民の方により、すでにビニール袋に入れられて集積所に置いてある、とのことでした。現場に着き確認すると、小さなこねこでした。かわいそうに、と思いつながら袋を持ち上げると、いきなり、にゃあ、と鳴き声がありました。うわーっ、と私は心臓が停まる程驚きました。もう一度恐る恐る袋の中をのぞいて見ると、死んでいるはずのこねこがもぞもぞと動いています。さすがに生きている動物は回収出来ません。でもそのまま置いていく訳にもいきません。一体どうしよう、と困ってしまいました。こねこをさわると体が冷たくなっていましたので、このまま死んでしまうのは時間の問題です。この

まま見殺しにしてもいいのか。私にはできません。動物病院へ連れて行くことにしました。車のヒーターを一杯に上げ、こねこを手の平で包んで温めました。獣医さんによると目もまだ開いていないので、おそらく生後一週間程ではないか、とのことでした。低体温症を起こしている自分でミルクを吸う力もない程衰弱しているので、すぐに入院とのことでした。注射を打たれ、私の小指より小さなこねこの足に点滴のチューブが繋がれている姿はとても痛ましい感じがしました。どうか助かって、と私は祈りながら動物病院を後にしました。幸い、その後こねこは自分で哺乳瓶からミルクを吸える程回復し、一週間ほどで退院することができました。

我が家にはいぬが一匹にねこが三匹います。みんな捨てられていたり、車にはねられて死に掛けていたり、前の飼い主が事情があって飼えなくなってしまった子たちです。これ以上動物が増えるのは大変ですが、私はこねこを引き取ることにしました。人間より動物の方が多い我が家です。そんな環境なので、二人の子どももすっかり動物好きに育ちました。読み聞かせた絵本は動物が出てくる物語が多かったです。特に次女はねこが大好きで、一番気に入っている絵本が『こねこのクリスマス』です。捨てられて雪の中をさまよっていたこねこがサンタクロースに助けられます。クリスマス夜の夜、サンタクロースは子どもたち一人一人に、その子にぴったりなプレゼントを選んで配ります。お友達がほしい、と思っていた

おんなの子にサンタクロースは助けたこねこをプレゼントトします。クリスマスの朝に起きた子どもたちは、欲しかったプレゼントをもらえてみんな大喜び。もちろん、おんなの子も。我が家で引き取ったこねこはこの絵本の中のこねここと偶然同じ柄でした。次女にはその姿が重なり合うのでしょうか、寝る前に『こねこのクリスマス』を読んであげると、こねこはこうなっちゃうの、と真剣な顔をして聴き入り、最後は安心して、ああ、よかった、と泣きながら眠るのがお決まりでした。その次女も小学生となり、今では好きな本を自分で読むようになったので、以前のように私が絵本を読んであげることなくなりました。寂しい思いをしています。今でも本棚に並んだたくさんのお絵本のなかで、『こねこのクリスマス』の背表紙が目に入る度、私はあの日のことを思い出します。すっかり成長して大きくなったねこの頭を、いとおしそうになでている次女。そして次女にされるがまま、気持ち良さそうに目を閉じて次女に体を任せているねこ。その姿を見るたびに私は本当に幸せな気持ちになります。絵本の読み聞かせをやってやさしい気持ちの子どもに育って本当に良かった、そしてあの時こねこを引き取って本当に良かった、と私は思います。将来、この子が結婚して子供が生まれたら、『こねこのクリスマス』を思い出とともに読んであげたいです。

労働者は互いに支え合うことで 組織として当局と対等に交渉できる

新入組合員歓迎学習交流会

ようこそ労働組合へ 青年部から27人が参加



青年部の取り組みに積極的な参加を呼びかける石川青年部長

4月25日(金)SKプラザ地下ホールにて新入組合員歓迎学習交流会が開かれ、新規採用の仲間を迎えた青年部27人(新任研修の合員ら20人)が参加してきました。

まず、吉田中央執行委員長より「労働組合の役割と存在意義について」講演を受けました。まず始めに「今ある労働条件は先輩達が交渉し、勝ち取ってきたものである。」と話されました。

また、労働者が団結する意義について「労働者は一人では弱い立場だが、互いに支えあうことで組織として当局と対等の立場で交渉することが出来る」「一人ひとりの環境や考えなど違いはあるが、共通すること全体で共有することが必要だ」と話されました。

組合費については「組合費は保険料ではない。払ったから、自らに還元されるものではない」と労働条件や職場環境、賃金実態などのあらゆる諸課題に対し、自ら主体的に取り組む姿勢こそが重要であると述べられました。最後に「労働組合は組織、組合員は組織人であり、みんなで決めたことはみんなで守る」ことの必要性を述べられました。

次に、石川青年部長より「青年部活動の報告」をテーマに学習を含め、と題し、講演を受けました。青年部組織の成り立ちから、昨年の青年部定期大会時における青年部員数、青年部の年間活動計画、第85回ミーデーについて話がありました。

年間活動計画では12月の「生命と権利」を守る青年

また、労働者が団結する意義について「労働者は一人では弱い立場だが、互いに支えあうことで組織として当局と対等の立場で交渉することが出来る」「一人ひとりの環境や考えなど違いはあるが、共通すること全体で共有することが必要だ」と話されました。

組合費については「組合費は保険料ではない。払ったから、自らに還元されるものではない」と労働条件や職場環境、賃金実態などのあらゆる諸課題に対し、自ら主体的に取り組む姿勢こそが重要であると述べられました。最後に「労働組合は組織、組合員は組織人であり、みんなで決めたことはみんなで守る」ことの必要性を述べられました。

次に、石川青年部長より「青年部活動の報告」をテーマに学習を含め、と題し、講演を受けました。青年部組織の成り立ちから、昨年の青年部定期大会時における青年部員数、青年部の年間活動計画、第85回ミーデーについて話がありました。

年間活動計画では12月の「生命と権利」を守る青年



はじめてデモに参加します



未来は青年のもの

第39回組織集会を成功させよう

移管から15年目を迎え、質の高い公共サービスとしての清掃事業のあり方が問われています。車付雇上に代表される非正規労働者や臨時職員の活用が拡大され、把握できない現場が増えることで“現場の劣化”を指摘する声も大きくなっています。

わが組合が23区・一組を貫く単一労働組合という組織形態を選択したのは、行政のチェック機関としての社会的労働運動を目指したものです。

官・民、正規・非正規の枠を超えて、質の高い清掃事業を守る社会的な責任と運動展開が問われ、そのための強固な組織体制を確立することが喫緊の課題となっています。

こうした状況を踏まえ、第39回組織集会では、「良質の公共サービスとしての清掃事業を考える」「組織財政について」の2本を柱に議論を深め、全体での共有化をはかります。

- 日時 6月8日(日)10時00分～6月9日(月)13時30分
- 場所 箱根路開雲